



秋に九州西部を南下するサシバ

井上賢三郎¹・矢次智浩²・松下彩二³

1. 日本野鳥の会熊本県支部. 〒 862-0947 熊本市東区画図町重富 11-4

2. 日本野鳥の会熊本県支部. 〒 862-0924 熊本市中央区帯山 1-33-25

3. 日本野鳥の会福岡支部. 〒 816-0802 福岡県春日市春日原北町 2-26-1-302

はじめに

サシバ *Butastur indicus* は、日本では本州や四国および九州で繁殖するが、中国の東部やウスリー地方、朝鮮半島の北部などにおいても繁殖する(清棲 1978, 高野 1982, 森岡ほか 1995)。そして、日本で繁殖するサシバは秋になるとそれぞれの繁殖地から南や西へ渡りを始めるが、本州で繁殖するサシバの大部分は中部地方以西では主に太平洋側を西進し、四国を通った後に九州の東側を南下し、さらに南西諸島を通して東南アジア方面へ渡る(武田 1989, Shiu *et al.* 2006) また、近年は中国地方の一部でもサシバの渡りが観察されている(タカの渡り全国ネットワーク <<http://www.gix.or.jp/~norik/hawknet/hawknet0.html>> 参照 2022 年 7 月 19 日)。それらと比較して、秋に九州西部を南下するサシバは、羽数としては九州の東側を南下するサシバの 15%~20%ほどである。九州西部の内陸部においては熊本県の西側や中央部および東側の 3 つのルートで観察されてきた(井上ほか 1994, 2018, 日本野鳥の会熊本県支部 2009)。その内、西側で観察されるサシバの渡りルートは、熊本市の上空を北西から南東へ向かうものであるが、それらのサシバは全国的なタカ類の渡り調査が始まって以来、国内の一部のサシバが本州の中国地方から九州北部へ飛来した後に、熊本県へ南下して来るものと考えられてきた(日本野鳥の会熊本県支部, 1994~2018)。

一方で、1986 年と 1988 年の 10 月には、さらに西側に位置する天草市の複数個所でサシバを主体とした渡りの調査が行なわれた(金子 1986 私信, 金子ほか 1988)。しかし、その際のサシバの観察数が数羽から 10 数羽であったことから、渡りの数としては少ないとして、その後の調査は行なわれなかった。さらに、長崎県の五島列島福江島や生月町でも 1996 年と 1997 年にサシバの渡り調査が行なわれたが、やはり観察されたサシバは少数であった(井上 1998)。ところが、2004 年 10 月に鹿児島県の長島町でサシバが良く観察されるという情報を得て、2006 年 10 月 8 日に現地で渡りの調査を行なったところ、71 羽のサシバが観察された(井上・矢次 2006)。

近年の衛星追跡調査により、九州最西部のこのエリアを通過するサシバが存在することはすでに明らかとなっている(土方・時田 2021)。上記のように、九州北西部の数か所では何回か秋のサシバの渡り調査も行なわれてきた。しかし渡りの規模がどの程度か、またこのルートが恒常的なものであるか等の詳細は判明していなかった。一方で、鹿児島県長島町でまとまったサシバの渡りが観察されていることを考慮すると、九州最西部にも渡りのルートが存在する可能性がある。そこで本研究では、これまでより広域的に複数の観察地点を設置し、九州最西部を通過するサシバの渡りについての包括的な理解をめざし、知見の蓄積を

2023 年 3 月 6 日 受理

キーワード: サシバ, 秋の渡り, 九州西部

試みた。

調査方法

調査地は、九州北西部～西部地域の(図1)である。区域を4つに分け、長嶋町(長島)地区をNo.1、苓北町(天草)地区をNo.2、雲仙市・諫早市をNo.3、東彼杵郡・佐世保市・松浦市・世知原町・大村市・諫早市の一部地区をNo.4とした(表1)。調査は2006年に地区No.1の鹿児島県の長嶋町で開始した。その調査地で渡りの確認ができると次の年にはサシバが飛来する方向へ調査地を移し、地区No.2の熊本県の天草市を経て、地区No.3の長崎県の諫早市や雲仙市で調査を行なった。さらにその後、地区No.4の長崎県東彼杵町や川棚町、佐世保市や松浦市へ移動して調査を行なった。各調査地の位置は図2に示した。

双眼鏡や望遠鏡および望遠レンズを装着したカメ

ラ等を用い、九州での秋のサシバの渡りがピークを向かえる頃の天気の良い休日に、サシバが渡りに利用しそうな場所を地形図から想定し、1人～3人の調査員で1日～3日をかけ、渡っているサシバを探してその数を数え、飛行ルートを地図上に記録した。

調査結果

表1は、2006年から2021年までの間に、九州北西部の各調査地点で観察されたサシバの個体数を示す。

各調査地での渡りの状況

調査地区No.①では、周囲を広く見渡せる鹿児島県長嶋町の中央部にある牧場(標高300mほど)で渡りの調査を行なったが、「はじめに」でも触れたとおり、2006.10.8の9:20～14:00の間で、長島

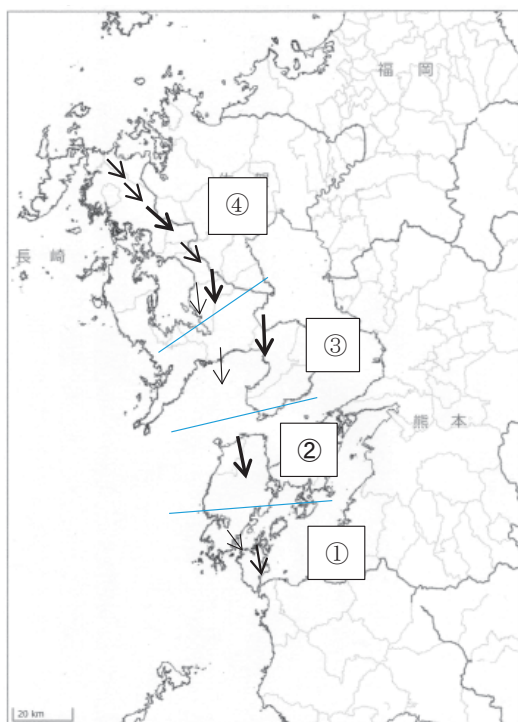


図1. 各調査地点における渡りの方向(①から④の4地区に区分)。各調査地点における渡りの方向を4地区に分けて示したものである。地理院地図Vectorを加工。

Fig. 1. Migratory direction at each survey site of the study area (① to ④). The diagram shows the migratory direction at each survey site.

表 1. 各調査地点の結果

Table 1. Results in each survey plot

地区 No.	調査日	調査地	天気	上空の風向 ・風力	調査時間	調査結果
1	2006.10.08	鹿児島県長嶋 毎床牧場	晴	北東 3 ~ 4	09:20-14:00	サシバ 71 羽が 南南東へ渡る
	2007.10.06	鹿児島県長嶋 毎床牧場	晴	北東 3	08:45-13:00	サシバ 37 羽が 南南東へ渡る
	2007.10.13	鹿児島県長嶋 陰平・茅屋	晴	東 4 → 1	10:00-12:50	サシバ 46 羽が 南南東へ渡る
	2008.10.13	熊本県天草郡 苓北町茶屋峠	晴	北東 2 ~ 3	09:50-14:00	サシバ 115 羽が 南南東へ渡る
	2009.10.12	熊本県天草郡 苓北町矢筈岳	晴	北東 1 ~ 2	10:00-14:00	サシバ 127 羽が 南南東へ渡る
	2010.10.11	熊本県天草郡 苓北町茶屋峠	晴	北東 2 ~ 3	08:20-12:40	サシバ 574 羽が 南南東へ渡る
	2011.10.12	熊本県天草郡 苓北町茶屋峠	晴	北東 2	10:10-14:30	サシバ 44 羽が 南南東へ渡る
	2012.10.11	熊本県天草郡 苓北町茶屋峠	晴	北→西 2	09:30-14:00	サシバ 133 羽が 南南東へ渡る
	2013.10.10	熊本県天草郡 苓北町茶屋峠	曇	南西 1 ~ 2	09:00-14:00	サシバ 4 羽渡らず
	2014.10.18	熊本県天草郡 苓北町茶屋峠	晴	北東→南東 3	08:20-12:00	サシバの渡りなし
2	2015.10.06	熊本県天草郡 苓北町茶屋峠	晴	北西 2 ~ 3	09:00-14:05	サシバ 111 羽が 南南東へ渡る
	2016.10.10	長崎県諫早市 飯森町	晴	北東 3 ~ 4	09:10-13:00	サシバ 34 羽が 南へ渡る
	2017.10.09	長崎県雲仙市 吾妻牧場	晴	北 1 ~ 2	11:30-14:00	サシバ 134 羽が 南へ渡る
	2018.10.09	長崎県雲仙市 吾妻牧場	晴	北東 3	09:50-15:00	サシバ 64 羽が 南へ渡る
	2019.10.08	長崎県東彼杵郡 虚空蔵山	曇	北西 3 ~ 4	11:00-15:00	サシバ 10 羽が 南東へ渡る
	2019.10.09	長崎県佐世保市 潜木	晴	南→北 1 ~ 3	08:40-14:30	サシバ 118 羽が 南東へ渡る
	2020.10.11	長崎県松浦市 高法知岳	晴	北東 3 ~ 4	10:10-17:00	サシバ 57 羽が 南東へ渡る
	2020.10.12	長崎県松浦市 高法知岳	晴	北 2	09:00-15:00	サシバの渡りなし
	2020.10.13	長崎県世知原町 国見山荘	晴	北 1 ~ 2	09:00-14:30	サシバ 5 羽が 南東へ渡る
	2021.10.08	長崎県大村市 黒木町	曇	北 1 ~ 2	09:50-14:00	サシバ 213 羽が 南へ渡る
3	2021.10.09	長崎県諫早市 御家原岳	晴	北西→北東 2	08:00-13:40	サシバ 7 羽が 南へ渡る

の中央部を北北西から南南東に向かってへ渡る 71 羽のサシバが観察された。また、2007.10.6 にも、前年と同じ場所で 8:45 ~ 13:00 の間に調査を行なったところ、やはり北北西から南南東へ渡る 37 羽のサシバが観察された。さらに 2007.10.13 には、長島町北西部の陰平地区と茅屋地区で、10:00 ~ 12:50 の間に調査を行なったところ、ここでも北北西から南南東へ渡る 46 羽のサシバが観察された。同じ日に、海峡を隔てた天草下島の六郎次山（標高 405 m）でも、長島へ渡る 4 羽のサシバが観察されている（松下一弘 私信）。

調査地区 No. ②では、2008.10.13、熊本県天草郡苓北町の茶屋峠西側の斜面（標高 250 ~ 350 m）で 9:50 ~ 14:00 の間に調査を行なったところ、115 羽のサシバが北北西から南南東へ渡るのが観察された。そこで、2009.10.12 には茶屋峠から 1 km ほど南にある矢筈岳（標高 476 m）で 10:00 ~ 14:00 の間に調査を行なったが、この時も北北西から南南東へ渡る 127 羽のサシバが観察された。しかし、矢筈岳からでは飛去が確認された方向に尾根根があり移動先がわからないため、2010.10.11 には再び茶屋峠西側の斜面に戻り 08:20 ~ 12:40 の間に調査を行なった。すると、2008 年と同じコースで南南東へ向かう 574 羽のサシバが観察された。また、その後年の 2011.10.12 にも同調査地で 10:10 ~ 14:30 の間に同じコースで渡る 44 羽のサシバが、翌年の 2012.10.11 にも同調査地において 9:30 ~ 14:00 の間に同じコースで渡る 133 羽のサシバが観察された。しかし、2013.10.10 の同調査地での 9:00 ~ 14:00 の間の調査では、曇り空で風力 1 ほどの南寄りの風であったからか、渡らずに周囲の山林に留まったままの 6 羽のサシバが観察されただけで、2014.10.18 の同調査地においても 8:20 ~ 12:00 の間の調査でサシバは全く観察されなかった。2015.10.6 には同調査地で 9:00 ~ 14:05 の間に、再び 2008 年と同じコースで渡る 111 羽のサシバが観察された。

調査地区 No. ③では、2016.10.10 に長崎県諫早市飯盛町の台地（標高 200 m）で 9:10 ~ 13:00 の間に調査地の東西を北から南へ渡る 34 羽のサシバ

が観察された。また、2017.10.9 には島原半島北西部の雲仙市吾妻牧場（標高 400 m）へ調査地を移して観察を行なったところ、11:30 ~ 14:00 の間に諫早湾の上空から調査地の上空へ飛来し、そのまま南へ渡る 134 羽のサシバが観察された。しかし、そのうちの 45 羽は観察地点から遠く離れた有明海側で旋回上昇しその後の飛去先がわからなかった。2018.10.9 にも同じ吾妻牧場で 9:50 ~ 15:00 の間に調査を行なったが、この日にも南へ渡る 64 羽のサシバが観察され、他に諫早湾上空から島原半島の東側へ飛去した 2 羽のサシバも観察された。

調査地区 No. ④では、2019.10.8 に長崎県東彼杵郡の虚空蔵山の西斜面（標高 400 m）で調査を行なったが、周囲を広く見渡せる場所が見つからず、11:00 ~ 15:00 の間の観察では上空を北西から南東へ渡る 10 羽のサシバが観察されただけだった。その為、翌日の 2019.10.9 には虚空蔵山から 20km ほど北西側の佐世保市潜木へ調査地を移して観察を行なったところ、北西方向の小塚岳（標高 370 m）周辺の稜線を越えて調査地の上空へ飛来し、八天岳（標高 707 m）の西側斜面の上空を南東へ渡る 118 羽のサシバが観察された。飛来方向をさかのぼり、2020.10.11 にはさらに 13 km ほど北西側となる松浦市の高法知岳北西斜面（標高 330 m）へ移動して調査を行なったところ、10:10 ~ 17:00 の間で北西の海側から飛来して南東へ渡る 57 羽のサシバが観察され、その中の一部は観察地点を通過した先で東南東へ向かう様子も見られた。しかし、その翌日に同じ調査地で 9:00 ~ 15:00 まで調査を行なったものの、ハイタカとノスリが観察されただけで、サシバは全く観察されなかった。2020.10.13 には高法知岳から 10 km ほど南東の長崎県世知原町にある小塚岳（標高 370 m）の北斜面へ移って観察を行なった。しかし、周辺の山地で旋回上昇飛行したサシバと、北側の稜線上に現れたサシバを合わせた 5 羽が南東へ渡っただけであった。2021.10.8 には、調査地区 No. ④で最も南側に位置する長崎県大村市黒木町（標高 500 m）で 9:50 ~ 14:00 の間に観察を行なったところ、北から南へ渡る 213 羽のサシバと、南東側の稜線上空を東や南東へ向かうサ

シバと思われる5羽のタカ類が観察された。これまで観察された渡りの方角から大まかな渡りルートを仮定し、その途中にあることが予想された五家原岳の山頂（標高 1,057 m）へと翌日は観察場所を移し、8:00～13:40の間に調査を行なったものの、気象条件は前日とそれほど変わらなかったのにも関わらず、西側の遠くを南へ渡るサシバ7羽が観察されただけだった。

考察

時間的に同時ではないが、九州西部の複数の地点で断続的に観察を行ない、少なくとも、熊本県の天草地区、島原半島の西側、長崎県東彼杵郡、長崎県松浦市などは本種の渡りの通過地点であることがわかった。一連の調査結果から、九州西部におけるサシバの大まかな渡りルートを推定すると、長崎県の北部から南部へ向かい、熊本県の天草地区を経て鹿児島県北部へ向かうものと考えられる。このような

渡りルートは、人工衛星を利用した追跡調査の結果とも一致しており、朝鮮半島で越冬した個体が秋に九州北西部へ渡りさらに南下した例や、佐賀県や福岡県での繁殖個体が有明海沿岸を南下して鹿児島県へ渡った例がある（土方・時田 2021）。

今回の我々の観察と同時期の、全国タカの渡りネットワークにおける九州北部でのサシバの渡りの記録（<<http://www.gix.or.jp/~norik/hawknet/hawknet0.html>>, 参照 2022 年 7 月 19 日）を参照すると、一日の観察数が、北九州市付近での秋のサシバの渡り期間中の観察数よりも、福岡市の西部に位置する片江・油山で多い年がある。2000 年から 2021 年までの秋の渡り観察期間中に片江・油山で 50 羽以上の渡り観察記録（日本野鳥の会福岡支部 2022）があった日の、気象庁発表の過去の気象情報（<<https://www.data.ima.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>>, 参照 2022 年 7 月 19 日）では、そのような日には九州北西部では西寄りの風が吹いていた事が分かる

表 2. 片江・油山でサシバが多数観察された日の九州北西部の気象. 風力はビューフォート風力階級値を使用.
Table 2. Weather conditions in northwestern Kyushu on the day when a large number of Grey-faced Buzzards were observed at Katae and Aburayama. Wind power is based on Beaufort wind power state.

年 月 日	福岡市片江・油山でのサシバの観察数	対馬・厳原の天気 地上の風向・風力 時間帯: 9:00～14:00	扶去木・唐津の天気 地上の風向・風力 時間帯: 9:00～14:00	片江・油山の天気 地上の風向・風力 時間帯: 9:00～14:00
2001.10.10	57 羽	天気: 晴 風向: 南南西～西南西 風力: 2～4	天気: 晴 風向: 西 風力: 3	天気: 晴 風向: 南西～西 風力: 2～3
2002.10.07	90 羽	天気: 晴 風向: 南南西→北北西 風力: 1～2	天気: 晴 風向: 西～北西 風力: 2～3	天気: 晴→曇 風向: 西 風力: 2～3
2013.10.11	213 羽	天気: 晴 風向: 西北西～南西 風力: 2～3	天気: 曇→晴 風向: 南→西 風力: 1→2	天気: 雨→晴 風向: 南南西～西 風力: 1～3
2014.10.03	60 羽	天気: 晴 風向: 北北西～北西 風力: 2～3	天気: 晴 風向: 北西～西北西 風力: 2～3	天気: 晴 風向: 西～北北西 風力: 1～3
2019.10.08	159 羽	天気: 曇→晴 風向: 北北西→北西 風力: 2→4	天気: 曇 風向: 西北西～北 風力: 1～3	天気: 曇 風向: 西北西～北北西 風力: 2～3

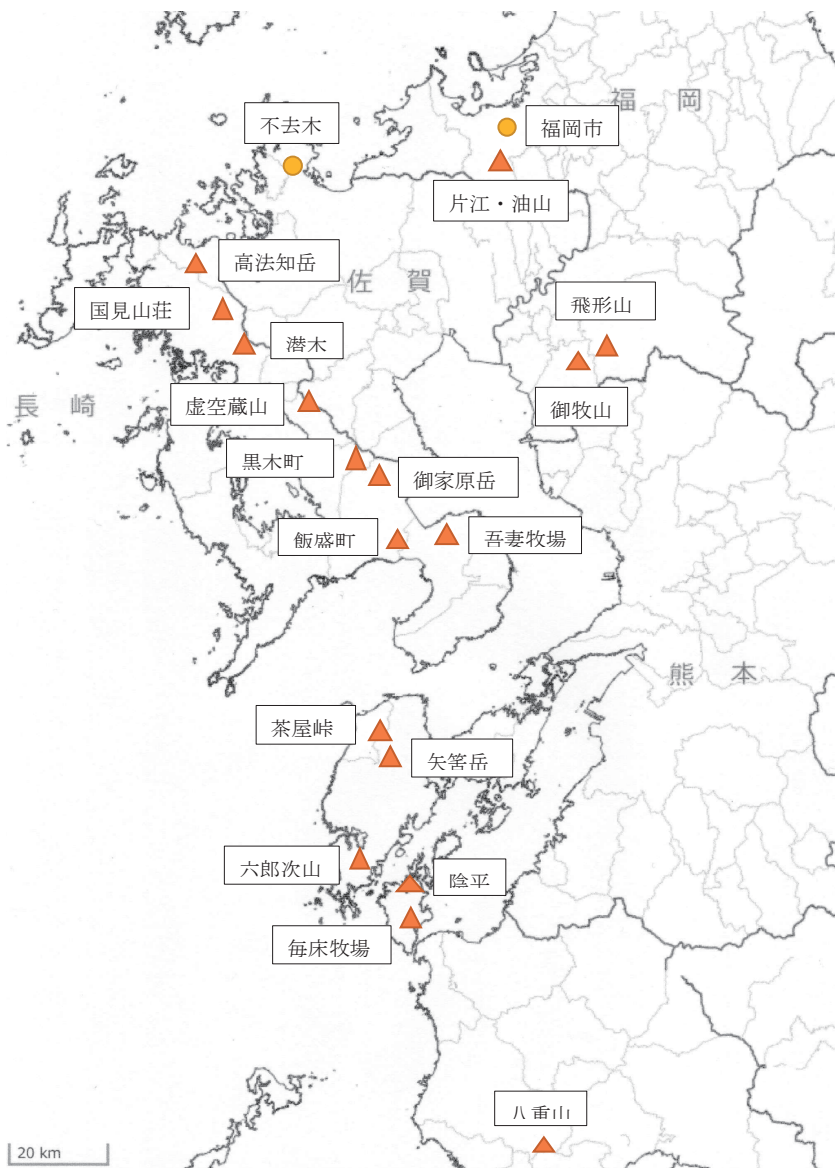


図 2. 秋のサシバの渡り観察地 (▲) と気象観測地 (●)

Fig. 2. Autumn migration observation plots (▲) and the weather stations (●) which provided meteorological information on the day migratory Grey-faced buzzards were observed.

(表 2)。

表 2, および長崎県松浦市から鹿児島県長島町に至る調査地における, サシバの渡り個体数と方角を考え合わせると, 九州の西側を南下するサシバの渡りルートは, 東北地方以南のサシバが南や西へ向かった後に九州の東側を南下するルートとは別ルートである可能性がある。

また, 九州本島の西側を南下するサシバの渡りルートにおいて, 熊本県と福岡県の県境から 2 ~ 4km 福岡県側に位置し, お互いの距離が 5km 離れている御牧山と飛形山では, 合計 71 羽のサシバの渡りが観察された事があるが (白石・原口 1993), その地区よりさらに北側における渡りの様子は殆ど分かっていない。しかし, 今回の九州北西部でのサシバの渡り調査の結果や, 福岡県の片江・油山で秋に渡るサシバが南へ飛去したという情報 (私信 浅野 2022) から, 九州の北部で繁殖したサシバや, 九州北西部へ飛来したサシバの一部が渡りの群れに合流しながら, 佐賀県や福岡県から南下して熊本県へ飛来している可能性が示唆される。福岡県糸島市で繁殖したサシバもまた, 同じようなルートをたどっている (土方・時田 2021)。

さらに, 熊本県の芦北町田浦や上天草市龍ヶ岳町でも, 上天草市方面から飛来した 30 羽のサシバの観察 (大岩 1993) や, 逆に上天草市から水俣市方面へ飛去した 100 羽ほどのサシバの観察 (松本 2017) がある事から, 九州北西部へ飛来したサシバの一部が, 気象状況などで長崎県の島原半島の東側を通過した後に, 熊本県の上天草市を経て芦北町や水俣市へ飛来する可能性も考えられる。

その他, 2010.10.15 に行なわれた, 鹿児島県入来町の八重山での秋のサシバの渡り調査 (井上賢三郎・矢次智浩・河端正太郎: 未発表) では, 八重山の西側や東側の尾根で旋回上昇飛行して南南西へ飛去する 278 羽のサシバが観察されたが, 八重山が鹿児島県長島町の南東方向に当たる事から, 尾根の西側上空に現れたサシバは長島町方面から飛来した可能性もあり, 今後さらなる観察の蓄積が必要だろう。

最後に, 今回の長崎県松浦市での秋のサシバの渡り調査で, サシバが北西の海側から松浦市の高法知

岳へ飛来して南東へ飛去した事から, 秋に九州北西部へ渡って来るサシバの渡りルートは, 本州から九州にかけて東から西へと移動する典型的なルートとは異なり, 朝鮮半島から対馬を経由して九州へ渡る別の個体群と関係している可能性もあるだろう。

謝辞

今回の調査では, 熊本県天草市在住の松下一弘氏や金子博臣氏および松原茂氏, さらに熊本県宇土市在住の前田潤一氏および長崎県佐世保市在住の今里順一郎氏には, 調査に関していろいろお手伝いをいただいた事に感謝を申し上げたい。また, 日本野鳥の会福岡支部の秋のサシバの渡りデータやタカの渡り全国ネットワークのデータ, さらに気象庁の過去の気象データを参照できた事, 国土地理院の地図を使用出来た事にも謝意を示したい。

引用文献

- 井上勝巳. 1998. 長崎県五島列島福江島を秋期に渡るタカ類. *Strix* 16:109-120
- 井上賢三郎・白石健一・原口研治・大岩憲治・他. 1994. 1993年一秋一タカの渡り県下一斉調査報告. 野鳥くまもと. (100): 2-4
- 井上賢三郎. 1997. 九州北西部における春のサシバの渡り. *Strix* 15: 130-132.
- 井上賢三郎. 2018. 2017年, 秋 タカ類・ハヤブサ類の渡り調査報告. 野鳥くまもと. (361): 2-11.
- 井上賢三郎・矢次智浩. 2006. 野鳥くまもと.(238): 2-8.
- 井上賢三郎・金子博臣. 1988. 野鳥くまもと.(42): 4-5.
- 気象庁. 2001, 2002, 2013, 2014, 2019. 過去の気象データ検索. <<https://www.data.ima.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>>. 参照2022年7月19日
- 清棲幸保. 1978. 日本鳥類大図鑑. 講談社, 東京.
- 国土地理院. 地理院地図Vector (gsi.go.jp) <<https://www.bing.com/search?Q=>>. 参照 2021年11月30日
- 土方直哉・時田賢一. 2021. タカ類の渡り. 樋口広芳編. 鳥の渡り生態学. 東京大学出版会, 東京.

- 松本公博. 2017. 野鳥くまもと. (361): 2-11.
- 森岡照明・叶内拓哉・川田隆・山形則男. 1995. 図鑑 日本のワシタカ類. 文一総合出版, 東京.
- 日本野鳥の会福岡支部. 2022. 片江油山でのタカの渡り2001~2019. <<http://www.gix.or.jp/~norik/hawknet/hawknet0.html>> 参照 2022年7月19日
- 日本野鳥の会熊本県支部. 1988~2018. タカの渡り調査報告およびタカ類・ハヤブサ類の渡り調査報告. 野鳥くまもと. (42): 4-5., (100): 2-4., (123): 2,4-5., (135): 2,4-5., (144): 2,4-5., (156): 2,4-5., (167): 2-6., (181): 2-., (195): 2-7., (205): 3-8., (215): 2-8., (227): 2-7., (238): 2-8., (250): 2-10., (261): 2-9., (281): 2-11., (292): 2-10., (304): 2-10., (315): 2-11., (326): 2-11., (337): 2-13., (349): 2-9., (361): 2-11.
- 日本野鳥の会熊本県支部. 2009. くまもとの野鳥(写真図鑑) 日本野鳥の会熊本県支部, 熊本.
- 大岩憲治. 1993. 野鳥くまもと. (100): 2-4.
- 白石健一・原口研治. 1993. 野鳥くまもと. (100): 2-4.
- Shiu H, K. Tokita, et al. 2006. Route and site fidelity of two migratory raptors: Grey-faced Buzzards *Butastur indicus* and Honey-buzzards *Pernis ptilorhynchus*. *Ornithol. Sci.* 5: 151-156.
- 高野伸二. 1982. フィールドガイド日本の野鳥. 日本野鳥の会, 東京.
- タカの渡り全国ネットワーク. 2022. <<http://www.gix.or.jp/~norik/hawknet/hawknet0.html>> 参照2022年7月19日
- 武田恵世. 1989. 日本列島におけるタカの渡り. *Strix* 8: 35-123.

Report of a new autumn migration route of Grey-faced Buzzards based on visual observations in western Kyushu, southern Japan

Kenzaburo Inoue¹, Tomohiro Yatsugi² & Saiji Matsushita³

1. Wild Bird Society of Japan, Kumamoto Branch. 11-4, Shigetomi, Ezu-machi, Higashi-ku, Kumamoto, 862-0947 Japan
2. Wild Bird Society of Japan, Kumamoto Branch. 1-33-25, Obiyama, Chu-o-ku, Kumamoto, 862-0924 Japan
3. Wild Bird Society of Japan, Fukuoka Branch. 2-26-1-302, Kasugabaru-Kitamachi, Kasuga, Fukuoka, 816-0802 Japan

We counted and observed the flight direction of Grey-faced Buzzards in autumnal migration through visual observations to estimate the routes on the western side of Kyushu, southern Japan. We observed a total of 71 and 37 birds in Nagashima Island, Kagoshima Prefecture in October 2006 and 46 in 2007. Between 2008 and 2021, several dozens to several hundred Grey-faced Buzzards were observed in Amakusa City, Kumamoto Prefecture, Unzen City, southern Nagasaki Prefecture, and Matsuura City in the northern part of the prefecture. At these observation plots, Grey-faced Buzzards flew from the north and headed for the south. These results indicate the existence of an autumnal route of Grey-faced Buzzards migrating along the western part of Kyushu.

Keywords: Grey-faced Buzzard, *Butastur indicus*, autumn migration, western Kyushu